

青年海外協力隊員  
石塚幹子さんから  
お便りが届きました

# コスタリカ から

# Hola!

オラ



コスタリカ共和国の言語はスペイン語。Holaは「こんにちは」の意味です。



- ①下宿先の家族と火山観光
- ②国立劇場前の広場。地元の人や観光客が集まりにぎやか
- ③コスタリカ料理の「Casado (カサド)」という定食。お米と黒い豆は定番で、その他に、肉やサラダなどを選んで食べます

常陸大宮市の皆さんこんにちは。常陸大宮市第1号の青年海外協力隊員として平成24年1月、中米のコスタリカ共和国に赴任した、石塚です。第1回は青年海外協力隊とコスタリカについて紹介したいと思います。青年海外協力隊は、独立行政法人国際協力機構（JICA）が実施する事業の一つです。協力隊員は開発途上国に原則2年間派遣され、現地の人々と共に生活し、異なる文化・習慣に溶け込み、草の根レベルで途上国の抱える課題の解決を目指して活動します。現在約2500人の日本人が世界各国で活動しています。コスタリカでは11人の隊員が、生態調査、防災、栄養、教育、スポーツ等の分野で活動中です。

「コスタリカ」は、スペイン語で「豊かな海岸」を意味します。海に面し、また山に囲まれた自然豊かな国です。首都サンホセにおいても庭先や道路脇にマンゴー、バナナ、ココヤシなどの木々や色とりどりの花が咲いています。南北アメリカ大陸を結ぶ地域に位置し、日本との時差は15時間。遠い国にいる事を実感します。面積は約5万1千km<sup>2</sup>（四国と九州を合わせた位の大きさ）と小さな国です。サンホセなど高地部は年間25℃前後のため過ごしやすい気候ですが、低地部は年間気温が約30℃の熱帯気候です。季節は乾期（12月～4月）と雨期（5月～11月）に分かれていて、今は乾期のため雨はほとんど降りません。

主要産業は農業（コーヒー、バナナ、パイナップル）で、近年は製造業、観光業などが成長しています。軍隊を持たない平和な国としても有名で、識字率は約96%と中米の中で最も高い水準です。また日本と同じ長寿国であるとともに、少子高齢化にも直面しています。

私は、オリエンテーションや語学訓練のため首都に1カ月間滞在しました。その間、目にした衣食住に関してですが、高層ビルはほとんどありません。住居は、コンクリート造りで黄色、桃色、水色など色とりどりで鮮やかです。また、防犯のために家の周りは鉄格子で囲んであり、日本との違いを感じます。食事は、米と豆が主食で、肉、魚、野菜、果物と何でもあります。米は粘り気のないパサパサとしたインディカ米で、豆は小豆に似ています。毎日、下宿先の家族が美味しいご飯を作ってくれます。服装は、ジーンズにTシャツ姿の人を多く見かけます。全体的に人々の体形は、ふくよかな方が日本よりも多いようです。こちらでジーンズを買ってみました。伸縮性に富んでいました。食には気を付けて、野菜を多めに食べようと思っています。

2月中旬より、首都から地方のウパラという貧困地域に移り本格的に活動を開始しました。これからもコスタリカからお便りをお届けしますので、どうぞよろしくお願ひします。